

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

CRG ホールディングス

7041 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

2022 年 12 月 22 日 (木)

執筆：客員アナリスト

清水陽一郎

FISCO Ltd. Analyst **Yoichiro Shimizu**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2022 年 9 月期の業績概要	01
2. 2023 年 9 月期の業績見通し	01
3. 中期成長戦略	02
■ 会社概要	03
1. 会社概要	03
2. グループ会社の状況	04
■ 事業概要	05
1. 事業内容	05
2. 強み	08
■ 業績動向	10
1. 2022 年 9 月期の業績概要	10
2. 財務状況	11
■ 今後の見通し	13
1. 2023 年 9 月期の業績見通し	13
2. 中期成長戦略	14
■ 株主還元策	15
■ ESG/SDGs への取り組み	16

要約

人のチカラと IT で、業績拡大が続く局面

CRG ホールディングス <7041> は総合人材サービス企業である。人材派遣紹介事業として、コールセンターや工場・倉庫業務等、クライアントのニーズに応じた人材を短期から長期、1 名から多人数、派遣から請負委託まで柔軟に対応している。また、製造請負等のアウトソーシングサービスや RPA※や AI-OCR 等クライアントの業務効率化やデジタル化を支援するテクノロジーサービス、障がい者福祉サービス事業、M&A・投資事業も展開している。

※ Robotic Process Automation (ロボティック・プロセス・オートメーション) の略。主にパソコンで作業している定型化された業務をロボットにより自動化する取り組みのこと。

1. 2022 年 9 月期の業績概要

2022 年 9 月期の業績は、売上高で前期比 9.8% 増の 21,380 百万円、営業利益で同 28.5% 増の 483 百万円、経常利益で同 2.3% 減の 463 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 6.6% 減の 287 百万円となった。中長期的な事業戦略で定めた「派遣領域の拡充」「派遣領域の請負化」「サービスの拡充」が順調に進捗したことで、増収・営業増益となった。売上高に関しては、人材派遣紹介事業がけん引役となった。新型コロナウイルス感染症の拡大（以下、コロナ禍）の影響が薄れてくるなかで、人材需要が旺盛となった。営業利益に関しては、労働生産性の改善が寄与した。加えて、新規事業として取り組んできた障がい者雇用サポートが黒字に転換したことも営業利益の急伸に寄与した。経常利益に関しては前期比で減少しているものの、これは雇用調整助成金が減少したことが要因である。なお、同社が属する人材サービス業界においては、2022 年 9 月の有効求人倍率（季節調整値）は 1.34 倍、完全失業率は 2.6% となった。緊急事態宣言の解除に伴う段階的な事業再開に伴い、人材需要は回復傾向で推移した。

通期会社計画と比較しても売上高・営業利益・経常利益は上振れて着地した。売上高は計画比 1.3% 増、営業利益は同 7.3% 増、経常利益は同 1.7% 増、親会社株主に帰属する当期純利益は同 0.6% 減となった。売上高は、人材関連需要が堅調となったことが寄与した。利益面に関しては先述のとおり、生産性の改善と障がい者雇用サービスの収益貢献が大きく寄与した。

2. 2023 年 9 月期の業績見通し

2023 年 9 月期の業績に関して同社は、売上高で前期比 5.2% 増の 22,500 百万円、営業利益で同 1.3% 増の 490 百万円、経常利益で同 3.5% 増の 480 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 11.2% 増の 320 百万円と見込んでいる。既述のとおり、有効求人倍率は上昇傾向にあり人材需要は回復傾向にて推移している。一方で、顧客企業がコロナ禍の影響に鑑みて採用計画を見直したりするなど、同社の人材派遣紹介事業を取り巻く外部環境は不確実性が高い状況である。そうしたなかでも同社は、引き続き中長期的な事業戦略を実行し、増収増益を見込んでいる。

CRG ホールディングス | 2022 年 12 月 22 日 (木)

7041 東証グロース市場 | <https://www.crgh.co.jp/ir/>

要約

2022 年 9 月期においては、新規事業に関わる運営体制の構築に注力してきた。体制の整備は順調に進捗しており、2023 年 9 月期においては障がい者雇用サポートを始めとする新規事業による利益の積み上げが期待できる。

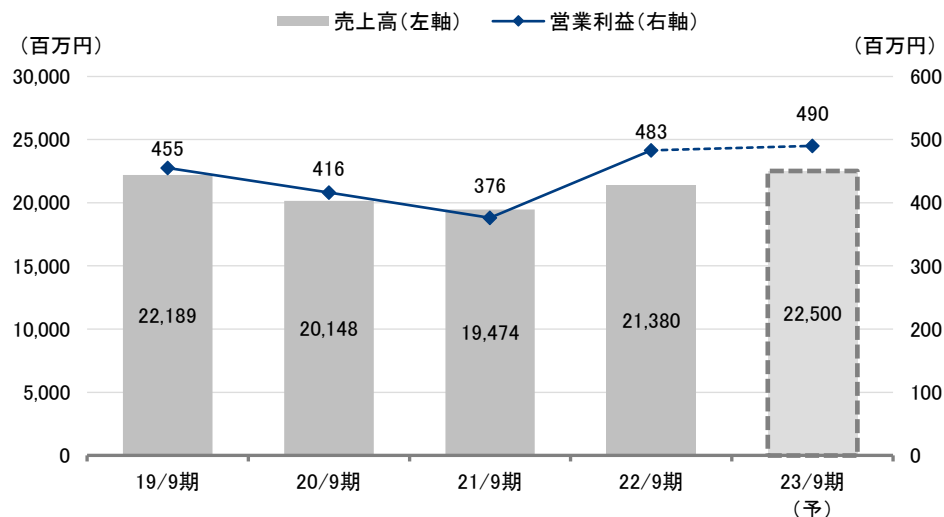
3. 中期成長戦略

企業にとって人材採用の重要性はますます高まっている。そして人材採用のニーズは加速度的に高度化、複雑化している。一方で、働き手のライフスタイルや価値観も多様化しており、それぞれの就業ニーズに応じた仕事を提供することは、決して容易ではない。中期成長戦略の基本方針は、中長期的な人手不足を見据え、事業ポートフォリオの見直しを実行し、高い利益率の実現を目指すことである。これまでの、人材派遣紹介事業と製造請負事業をベースに、同社の強みである「ユニット型派遣」、BPO、障がい者サポート、IT・Tech といった事業を積み上げていくイメージである。また、2022 年 11 月には同社上場後初となる M&A を実施した。通訳・翻訳サービスのプラットフォーム事業を営む（株）オシエテを買収することによって、サービスの拡充や派遣領域の拡充といった施策を推進していく構えだ。

Key Points

- ・緊急事態宣言の解除に伴う段階的な事業再開で、人材需要は回復傾向
- ・2022 年 9 月期は事業戦略も順調に進捗し、増収・営業増益
- ・会社計画と比較して営業利益が伸長。生産性の改善や新規事業が寄与
- ・人のチカラと IT を生かした新規サービスの拡大で、収益性を高める戦略

業績推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

CRG とは Communication・Relation・Growing を意味する

1. 会社概要

同社は総合人材サービス企業である。「次世代の労働市場における需給調整機能の担い手」として、人材派遣紹介、請負に加え、人材サービスに特化した HR システム開発・運用、さらには企業経営の根幹に踏み込む人事戦略の提案等も手掛けている。同社では、それぞれの得意分野に特化したグループ会社が、強固な連携を図り、最先端の IT 技術と人材リソースを融合させながら、それぞれが果たすべき役割に取り組んでいる。人材に関する社会からのあらゆる要請に応える強い組織体を構築することで、幅広い年齢層の人々がより意欲的に働き、それによって企業が高い生産性を発揮できる環境を持続的に提供している。

社名に込められた意味は、「ステークホルダーとのコミュニケーションを図り (Communication)、関係性を構築 (Relation) し、ともに成長していく (Growing)」ことをそれぞれの頭文字である CRG によって表現しており、「ともに手を携えてより大きな組織、より理想とするカタチを作り上げていこう」という思いが込められている。

同社は「成長を愉しもう」という企業理念を新たに策定している。「人も企業も、持続的に成長するには、何よりも成長を愉しむことが重要である」という考えのもと、「一人ひとりが成長を愉しみながら、やりがいを持って働ける舞台をつくることで関わるすべての人を大切にし、誰もがいきいきと働ける社会」の実現に貢献していくという姿勢を表明している。この企業理念に付随して、行動指針としては以下のものを策定している。

- ・挑戦：挑戦しよう。新たな一歩を踏み出すことに価値がある。
- ・スピード：スピードは品質だ。期限を決めて早く取り組もう。
- ・期待を超える：お客様の期待を超える仕事をしよう。
- ・発言と行動：事業をつくる当事者としての発言と行動にこだわろう。
- ・仲間：仲間を知ろう。感謝しよう。承認しよう。伝え合おう。
- ・コミュニケーション：気づきと気遣いのあるコミュニケーションをとろう。

CRG ホールディングス | 2022 年 12 月 22 日 (木)

7041 東証グロース市場 | <https://www.crgh.co.jp/ir/>

会社概要

沿革

年月	主な沿革
2004 年 3 月	(株)シーキャスト(12月に(株)キャストイングロードが吸収合併)がコールセンター派遣事業を開始
2004 年 10 月	(株)ジリオンキャリアリンクがキャストイングロードに商号変更
2013 年 8 月	キャストイングロードがセールスサポート事業を開始
2013 年 10 月	CR グループホールディングス(株)を設立 (株)ジョブスを設立
2014 年 8 月	CR グループホールディングスがキャストイングロードホールディングス(株)に商号変更
2015 年 10 月	(株)プロテクスを設立、製造請負事業を開始 キャストイングロードが介護ヘルパー派遣・看護師紹介事業を開始
2016 年 4 月	(株)キャストイングロードネクストが(株)イノベーションネクストに商号変更
2016 年 10 月	キャストイングロードホールディングスがジョブス及びプロテクスを完全子会社化
2017 年 4 月	キャストイングロードがシニア派遣を開始
2017 年 6 月	キャストイングロードホールディングスがCRG ホールディングス(株)に商号変更
2018 年 10 月	CRG ホールディングスが東京証券取引所マザーズへ上場(2022 年 4 月にグロース市場へ移行)
2019 年 4 月	CRG ホールディングスがグローバル人材サービス事業を開始
2019 年 10 月	CRG ホールディングスの完全子会社として、(株)パレットを設立
2019 年 11 月	パレットがサテライトオフィスサービス事業を開始
2020 年 11 月	キャストイングロードがアウトソーシング事業を開始
2021 年 2 月	CRG ホールディングスの子会社として、CRG インベストメント(株)を設立。事業承継・M&A 投資事業を開始 キャストイングロードが採用コンサルティング事業「採用見える化クラウド」を開始
2022 年 5 月	キャストイングロードがリゾートワーク事業を開始
2022 年 10 月	(株)CRS サービスがパレットを吸収合併し、(株)パレットに商号変更
2022 年 12 月	法人向けクラウド通訳・翻訳サービス事業を営む(株)オシエテを完全子会社化

出所：決算説明会資料、同社提供資料よりフィスコ作成

連結子会社 7 社で構成されており、拠点は全国に広がっている

2. グループ会社の状況

同社グループは、同社及び連結子会社 7 社で構成されており、それぞれが業界に特化する形式で事業運営を行うことで、サービス品質の向上及び迅速で的確なサービスの提供に取り組んでいる。グループ各社が相互に関連することによって、人材サービスのトータルサポートを行っている。なお、拠点も日本全国に広がっている。

会社概要

同社グループ会社一覧

CRG ホールディングス	グループの経営方針策定、経営管理
キャストイングロード	労働者派遣事業 有料職業紹介事業
ジョブス	労働者派遣事業 有料職業紹介事業 第 1 種貨物利用運送事業 業務請負事業
CR ドットアイ	ソフトウェア開発 スマートフォンアプリ開発 労働者派遣事業
プロテクス	工場内製造業務 工場内物流業務 倉庫運営 第 1 種貨物利用運送事業
パレット	障害福祉サービス事業他
CRG インベストメント	事業承継支援 M&A 投資事業他
オシエテ	通訳・翻訳サービスのプラットフォーム事業

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

事業概要

人材派遣紹介事業、製造請負事業、
その他事業（IT 関連、障がい者就労移向支援、M&A・投資）を
手掛ける

1. 事業内容

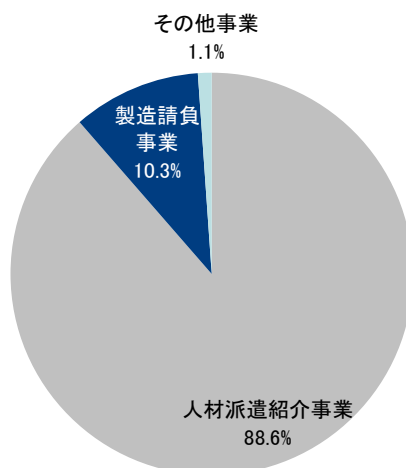
同社の主な事業は、(1) 人材派遣紹介事業、(2) 製造請負事業、(3) その他事業の 3 つである。2022 年 9 月期の売上構成比は、人材派遣紹介事業が 88.6%、製造請負事業が 10.3%、その他事業が 1.1% となっている。

CRG ホールディングス
7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)
<https://www.crgh.co.jp/ir/>

事業概要

事業別売上高構成比(2022年9月期)



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

(1) 人材派遣紹介事業

人材派遣紹介事業では、「労働者派遣事業」と「有料職業紹介事業」を行っている。

労働者派遣事業は、労働者派遣事業の適切な運営の確保及び派遣スタッフの保護等に関する法律（労働者派遣法）に基づき、厚生労働大臣の許可を受けて行う事業で、クライアントからの幅広い人材ニーズに対応すべく派遣スタッフを募集・登録し、教育研修した上で各企業へ派遣している。それぞれのグループ会社が個々の強みを生かし、様々な業種に対応したサービスを子会社ごとに提供している。また、少子高齢化による若年層の労働力不足への対応として、シニア層人材の提供を積極的に行っている。

一方、有料職業紹介事業は、職業安定法に基づき厚生労働大臣の許可を受けて行う事業で、求人企業と求職者との間での雇用関係の成立を斡旋している。

人材派遣紹介事業は、子会社の（株）キャストイングロードと（株）ジョブスを中心に展開している。

(a) キャスティングロード

キャストイングロードは、同社の中核を担う事業会社であり、主にオフィスワークサポート事業（ホワイトカラー）に係る人材を登録型派遣として各クライアントに提供している。テレマーケティング等を行うコールセンター派遣が中核であり、キャストイングロードの売上の大半を占めている。経験者を多数派遣することが可能であり、金融、教育分野等高度な知識が必要となる業種に対しても派遣を行っている。数多くのコーディネーターが、同社グループが独自開発した基幹システムを利用して迅速なマッチングを実現している。また、北海道から沖縄まで、国内の各地に拠点を有し、全国的な人材の提供が可能となっている。

CRG ホールディングス | 2022 年 12 月 22 日 (木)

7041 東証グロース市場 | <https://www.crgh.co.jp/ir/>

事業概要

さらに、キャストイングロードでは「ユニット型派遣」として、スーパーバイザー（管理者）とオペレーターをセットで紹介することも可能となっている。「ユニット型派遣」のメリットとしては、以下のようなものが挙げられる。

- ・スーパーバイザーからフォローを受けやすく、派遣スタッフの定着率が高くなる。
- ・派遣スタッフとともに働きながら現場管理・情報収集を行うスーパーバイザーが、クライアントである大手アウトソーサーから現就業先のほかの案件または別会社の案件の情報を得やすく、優先的に受注の打診を受けることができる。

受付・一般事務や秘書業務等幅広い事務業務に対応するオフィスワーク派遣は、簡単かつスピーディーなオンライン登録による人材の確保が可能となっている。また、成長企業の CXO や役員・部長・課長等のミドル・エグゼクティブ層をサーチ型で紹介するハイキャリアエージェントサービスも展開しており、ミドル・エグゼクティブの次のキャリア選びを支援するとともに、顧客企業の課題解決のサポートを行っている。

(b) ジョブス

ジョブスにおいては、各クライアントのニーズに応じた人材を提供しており、主に、下記のようなワークス事業（ブルーカラー）及びセールスサポート事業（オレンジカラー）並びにオフィスワークサポート事業（ホワイトカラー）の長期または短期派遣（登録型派遣）及び請負業務を行っている。豊富なスタッフ数により、短期から長期、1 名から多人数、派遣から請負委託まで幅広い需要に対し柔軟に対応している。

具体的には、ワークス事業では、工場の製造ラインにおける組み立て・仕分け・検品、物流倉庫におけるピッキング・フォークリフト運転・ラベリング・荷積み、事務所移転における引越し補助・荷造り梱包・解包等である。セールスサポート事業では、クレジットカード加入促進、携帯電話及び付属品の販売促進業務等の販売・接客、各種イベントの企画・集客・運営管理等である。オフィスワークサポート事業では、オフィスワークにおけるテレマーケティング、一般・営業事務・受付等である。

(2) 製造請負事業

製造請負事業では、(株)プロテクスにおいて、主に取引先メーカー及びその関連会社からペットフード、ペット衛生用品等ペット関連製品の製造請負及びその付随業務を行っている。取引先メーカー及びその関連会社の工場及び取引先の OEM 先である国内 4 拠点（兵庫県、埼玉県、静岡県、香川県）において、工場内製造請負（製造ラインオペレーター等）、工場内物流業務（フォークリフト業務等）、自社で SP 倉庫※運営業務（保管貨物の入出庫管理等）、輸送業務を行っている。

※ ストックポイント倉庫の略。配送のための一時保管を主とする物流の中継拠点のこと。

基本的に、取引先メーカーの生産計画に基づいた業務となるが、外部業者の位置付けでありながら、現場の改善活動等に関わる提案も行っている。取引先のニーズに幅広く対応することで、強固なリレーションを構築している。

CRG ホールディングス

7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)

<https://www.crgh.co.jp/ir/>

事業概要

(3) その他事業

(a) RPA 事業・システムソリューション事業・IT 関連事業

キャストイングロードにおいて、RPA の技術を活用したロボットをクライアントのニーズに合わせカスタマイズの上、販売代理を行っている。また、勤怠管理・労務管理システムを中心としたシステム設計・開発及び提供を行っている。代表的な商材としては残業改革ロボ「RooPA」による、主にホワイトカラーの業務自動化・効率化を図る RPA ソフトウェア、人材ビジネス向け基幹システム「C3」、勤怠ソリューション「P.i.T 勤怠」システムである。

(b) 障がい者福祉サービス事業

(株) パレットにおいて、一般就労の機会が少ない郊外エリアで、障がい者が職業訓練を行う就労移行支援事業を展開している。さらに、障がい者の雇用環境を整備し、地方において新たな雇用を創出するサテライトオフィスの提供も行っている。

(c) M&A・投資事業

同社グループとの相乗効果が見込まれる企業の M&A や出資に注力しており、主として CRG インベストメント(株)において、金融機関、M&A 仲介会社、マッチングサービス運営企業との関係性を強化している。

同社グループの総合力と豊富な実績をもとに顧客の人材面の課題を解決。「ユニット型派遣」を特徴とし、クライアントとの強固な関係構築に寄与

2. 強み

同社の強みは、「CRG グループならではの総合力」「人材業界 20 年の実績」「スピーディーな人材手配」「的確なフォロー」「業務効率化サポートの実績を生かした HR テック」「課題解決型の M&A・投資実行」に大別することができる。

(1) CRG グループならではの総合力

グループ全体のシナジー効果を生かし、人材分野で様々な課題を抱えている顧客に最適なサービスを提供することが可能となっている。

(2) 人材業界 20 年の実績

派遣事業を開始してから 20 年以上の歴史を持っている。長年の経験のなかで蓄積したノウハウを活用し、人材課題や業務効率化など人事面での課題を解決してきた実績を持っている。

(3) スピーディーな人材手配

全国数十万に及ぶ登録スタッフのなかから顧客にとって適切な人材をスピーディーな手配を行うことが可能である。

CRG ホールディングス
7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)
<https://www.crgh.co.jp/ir/>

事業概要

(4) 的確なフォロー

派遣スタッフへの定期的な面談を行い、継続率を向上させている。また、顧客に対しても定期的なフォローアップを実施することによって、継続的な取引を実現している。

(5) 業務効率化サポートの実績を生かした HR テック

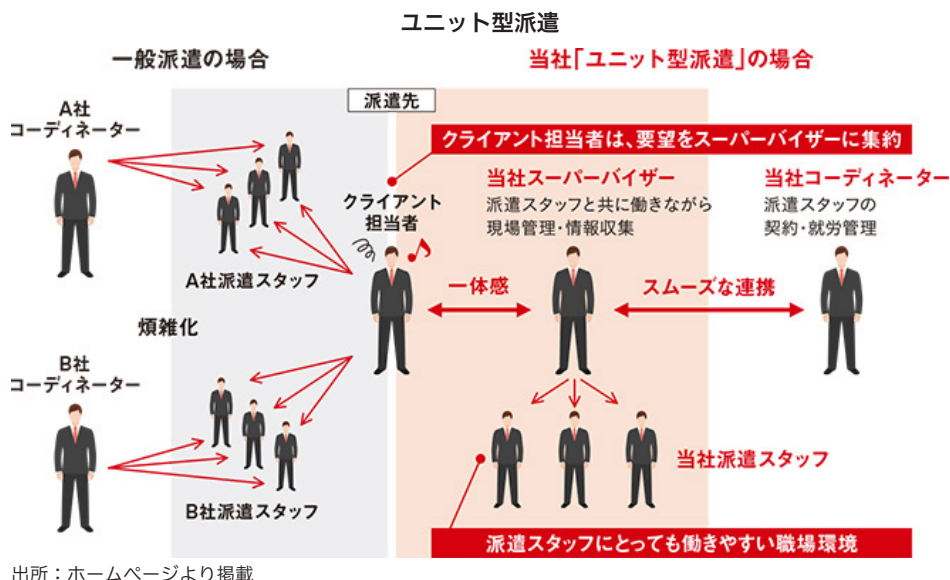
これまで培ってきた採用活動の効率化や業務の改善のノウハウと IT を活用した SaaS 型採用業務効率化 / 改善サービスを提供している。これにより、採用活動で様々な悩みを抱える顧客企業の課題解決に貢献している。

(6) 課題解決型の M&A・投資実行

総合人材会社としてのこれまでの知見を生かした課題解決型の M&A・仲介・投資を実施している。これにより、シナジーの創出と中長期的な企業価値の向上を目指している。

これらに加えて、人材派遣紹介事業において登録している人材の専門性の高さも強みとして挙げることができる。具体的には、銀行・証券・保険等高い専門性が求められる業種への派遣実績がある。

また、チームで派遣する「ユニット型派遣」という取り組みも特長である。「ユニット型派遣」とは、業務を熟知した同社社員をリーダーとして、派遣スタッフとともにチームで派遣することである。同社社員はスーパーバイザー（管理者）として、派遣スタッフとともに働きながら現場管理や情報収集を行い、クライアント担当者からの要望を集約する役目を担う。クライアントと一体となり事業に取り組むことによりニーズへの迅速かつ的確な対応を可能にしている。派遣スタッフにとっても働きやすい環境を作り出し、エンドユーザーの満足向上にもつながるという成果を生み出している。



業績動向

**2022 年 9 月期は主力の人材派遣紹介事業が好調、
各種事業戦略も順調に進捗し、増収・営業増益。
計画比でも売上高・営業利益・経常利益は上振れて着地**

1. 2022 年 9 月期の業績概要

2022 年 9 月期の業績は、売上高で前期比 9.8% 増の 21,380 百万円、営業利益で同 28.5% 増の 483 百万円、経常利益で同 2.3% 減の 463 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 6.6% 減の 287 百万円となった。同社が中長期的な事業戦略として掲げる「派遣領域の拡充」「派遣領域の請負化」「サービスの拡充」が順調に進捗した。「派遣領域の拡充」は、介護・看護分野へと派遣先業界を拡大させた。また、外国人人材の活用も新規に実施した。「サービスの拡充」は、コロナ禍において経済活動が再開するなかで今後の国内旅行の事業再開やインバウンド需要の回復を見据えて新規事業である「リゾートワーク事業」を開始している。加えて、障がい者雇用サポート拠点の新設、BPO センターの開設、営業コンシェルジュ、採用コンシェルジュといった各種新規事業が順調に立ち上がった。障がい者雇用サポートは既に黒字に転換するなど、収益貢献に向けて順調に動き出している状況だ。また、「派遣領域の請負化」は、派遣から入って当該業務を請け負うという流れが順調に進んだ。今後もこの流れを加速させていくことにより、収益性の向上が期待される。

各種事業戦略の着実な進行が見られるなかで売上高については、主力の人材派遣紹介事業がけん引役となった。コールセンター、物流倉庫内作業、イベント関連等で人材需要が旺盛となった。利益面では、労働生産性の改善が寄与した。加えて、新規事業である障がい者雇用サポートが利益の伸長に貢献した。経常利益は、前期比で減少しているものの、これは雇用調整助成金が減少したことが要因である。これらの結果、売上高・営業利益・経常利益は会社計画を上回って着地した（売上高は計画比 1.3% 増、営業利益は同 7.3% 増、経常利益は同 1.7% 増、親会社株主に帰属する当期純利益は同 0.6% 減となった）。

2022 年 9 月期の会社計画値と実績値の比較

(単位：百万円)

	21/9 期		会社計画	22/9 期			
	実績	売上比		実績	売上比	前期比	計画比
売上高	19,474	100.0%	21,100	21,380	100.0%	9.8%	1.3%
営業利益	376	1.9%	450	483	2.3%	28.5%	7.3%
経常利益	474	2.4%	455	463	2.2%	-2.3%	1.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	308	1.6%	290	287	1.3%	-6.5%	-0.6%

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

事業別売上高は、人材派遣紹介事業が前期比 10.8% 増の 18,942 百万円、製造請負事業が同 0.6% 増の 2,211 百万円、その他事業が同 25.9% 増の 226 百万円となった。製造請負事業に関しては、グループ会社であるプロテクスの業績が堅調に推移した。

CRG ホールディングス

7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)

<https://www.crgh.co.jp/ir/>

業績動向

なお、同社が属する人材サービス業界においては、2022 年 9 月の有効求人倍率（季節調整値）は 1.34 倍、完全失業率は 2.6% となった。緊急事態宣言の解除に伴う段階的な事業再開に伴い、人材需要は回復傾向で推移した。

2022 年 9 月期の要約連結損益計算書

(単位：百万円)

	21/9 期		22/9 期			
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	前期比
売上高	19,474	100.0%	21,380	100.0%	1,906	9.8%
人材派遣紹介事業	17,096	87.8%	18,942	88.6%	1,845	10.8%
製造請負事業	2,197	11.3%	2,211	10.3%	13	0.6%
その他事業	180	0.9%	226	1.1%	46	25.9%
売上原価	15,812	81.2%	17,341	81.1%	1,528	9.7%
売上総利益	3,661	18.8%	4,039	18.9%	377	10.3%
販管費	3,285	16.9%	3,555	16.6%	270	8.2%
人件費	2,015	10.4%	2,130	10.0%	114	5.7%
広告宣伝費	184	0.9%	270	1.3%	85	46.1%
支払手数料	283	1.5%	312	1.5%	28	9.9%
地代家賃	244	1.3%	279	1.3%	8	3.0%
その他販管費	556	2.9%	563	2.6%	33	6.3%
営業利益	376	1.9%	483	2.3%	107	28.5%
経常利益	474	2.4%	463	2.2%	-10	-2.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	308	1.6%	287	1.3%	-20	-6.5%

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

足元の業績は堅調、財務基盤の強化が進む

2. 財務状況

(1) 連結貸借対照表

2022 年 9 月期末における資産合計は 5,812 百万円となり、前期末比 668 百万円増加した。流動資産は 4,467 百万円となり、前期末比 59 百万円増加した。これは主に、その他が 38 百万円減少した一方で、現金及び預金が 16 百万円、受取手形及び売掛金が 79 百万円増加したことなどによるものである。固定資産は 1,345 百万円となり、前期末比 608 百万円増加した。これは主に、投資有価証券が 603 百万円増加したことなどによるものである。

負債合計は 2,741 百万円となり、前期末比 378 百万円増加した。流動負債は 2,724 百万円となり、前期末比 382 百万円増加した。これは主に、1 年内返済予定の長期借入金が 107 百万円減少した一方で、短期借入金が 250 百万円、未払消費税等が 218 百万円、未払法人税等が 27 百万円増加したことなどによるものである。固定負債は 16 百万円となり、前期末比 3 百万円減少した。これは主に、その他が 5 百万円増加した一方で、長期借入金が 9 百万円減少したことなどによるものである。

CRG ホールディングス
7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)
<https://www.crgh.co.jp/ir/>

業績動向

純資産合計は 3,070 百万円となり、前期末比 289 百万円増加した。これは主に、利益剰余金が 287 百万円増加したことによるものである。

2022 年 9 月期末の要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

	21/9 期末	22/9 期末	増減額
流動資産合計	4,407	4,467	59
現金及び預金	1,998	2,015	16
受取手形及び売掛金	2,275	2,355	79
固定資産合計	736	1,345	608
有形固定資産	155	192	37
無形固定資産	110	87	-22
投資その他の資産	470	1,064	593
資産合計	5,144	5,812	668
流動負債合計	2,342	2,724	382
短期借入金	250	500	250
固定負債合計	20	16	-3
長期借入金	9	-	-9
負債合計	2,362	2,741	378
純資産合計	2,781	3,070	289
負債純資産合計	5,144	5,812	668

出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) 連結キャッシュ・フロー計算書

2022 年 9 月期の各種キャッシュ・フローの概要は以下のとおりである。

a) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は 652 百万円となった。これは主に、売上債権の増加が 75 百万円、法人税等の支払額が 146 百万円あったものの、未払消費税等の増加が 218 百万円、減価償却費が 61 百万円、未払金の増加が 31 百万円、法人税等の還付額が 65 百万円、助成金の受取額が 11 百万円、税金等調整前当期純利益が 463 百万円あったことなどによるものである。

b) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は 742 百万円となった。これは主に、敷金の回収による収入が 3 百万円あった一方で、投資有価証券の取得による支出が 653 百万円、有形固定資産の取得による支出が 56 百万円あったことなどによる。

c) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、獲得した資金は 106 百万円となった。これは主に、長期借入金の返済による支出が 117 百万円、シンジケートローン手数料による支出が 23 百万円あった一方で、短期借入金の借入れによる収入が 250 百万円あったことなどによる。

CRG ホールディングス | 2022 年 12 月 22 日 (木)

7041 東証グロース市場

<https://www.crgh.co.jp/ir/>

業績動向

以上により、2022 年 9 月期末時点における現金及び現金同等物の残高は 2,015 百万円となり、前期末比 16 百万円増加した。

2022 年 9 月期の要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	21/9 期	22/9 期
営業活動によるキャッシュ・フロー (a)	244	652
減価償却費	63	61
投資活動によるキャッシュ・フロー (b)	-188	-742
フリー・キャッシュ・フロー (a) + (b)	56	-90
財務活動によるキャッシュ・フロー	-170	106
現金及び現金同等物の増減額	-114	16
現金及び現金同等物の期首残高	2,113	1,998
現金及び現金同等物の期末残高	1,998	2,015

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

2023 年 9 月期は増収増益を計画。 既存事業のさらなる拡大と各種新規事業の収益貢献を想定

1. 2023 年 9 月期の業績見通し

2023 年 9 月期の業績に関して同社は、売上高で前期比 5.2% 増の 22,500 百万円、営業利益で同 1.3% 増の 490 百万円、経常利益で同 3.5% 増の 480 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 11.2% 増の 320 百万円と見込んでいる。外部環境の不確実性が増すなかにおいても増収増益を見込んでいる。利益面に関しては、障がい者雇用サポートなどの各種新規事業が利益に貢献してくることが想定される。なお、営業利益の伸びが 2022 年 9 月期と比較して鈍化しているのは、新規事業が収益貢献してくることを見込む一方で、短時間労働者に対する社会保険適用拡大の影響を見込んでいるためである。

2023 年 9 月期においても中長期戦略のもと、既存事業である人材派遣紹介事業と製造請負事業のさらなる業績拡大を目指す。加えて、IT・Tech、障がい者サポート、BPO などの分野においても新規事業によって売上を積み上げる計画だ。具体的には、人材派遣紹介事業においては、経営基盤の強化に加えて、既存顧客に対する提供サービスのシェア拡大を図るとともに派遣先職種の拡充を推進していく。また、当該事業にて培ったノウハウを生かしたアウトソーシング化の推進や、新規事業の創出にも注力していく。加えて、M&A、資本業務提携、さらには M&A 仲介などによっても売上基盤の拡大を目指す。M&A については、2022 年 11 月に同社上場後初となる買収を実施した。オシエテのグループ化が同社の業績拡大に寄与することが期待される。新規事業に関しても、障がい者サポート拠点の新設に加えて、BPO センターの開設、営業コンシェルジュ、採用コンシェルジュなどが順調に進捗している。これら新規事業に関わる運営体制の整備が 2022 年 9 月期に順調に進捗したことにより、2023 年 9 月期から利益に貢献する見込みである。

今後の見通し

2023 年 9 月期の業績見通し

(単位：百万円)

	22/9 期		23/9 期		
	実績	売上比	会社計画	売上比	前期比
売上高	21,380	100.0%	22,500	100.0%	5.2%
営業利益	483	2.3%	490	2.2%	1.3%
経常利益	463	2.2%	480	2.1%	3.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	287	1.3%	320	1.4%	11.2%

出所：決算短信よりフィスコ作成

人材採用の重要性の高まりを追い風に、 複雑化する人と企業のニーズとの最適なマッチングによって 企業業績や競争力の向上に寄与

2. 中期成長戦略

同社は、「人のチカラと IT」の融合を事業方針として掲げている。社会に向けて人材を提供するだけでなく、「労働市場での需給調整機能とその高度化」という、より踏み込んだ役割を果たしていきたいという考えである。企業にとって人材採用の重要性はますます高まっており、そのニーズも加速度的に高度化、複雑化している。一方で、働き手のライフスタイルや価値観も多様化しており、それぞれの就業ニーズに応じた仕事を提供することは、決して容易ではない。そのため、同社は、人材マッチングと就業管理という中核機能を通じて、複雑化する人と企業それぞれのニーズを結びつけていく考えである。最適なマッチングによって、企業の業績や競争力の向上に寄与するとともに、働く一人ひとりが将来に希望を持てる社会を実現することで、日本の労働市場を一層豊かにすることに取り組んでいくようだ。

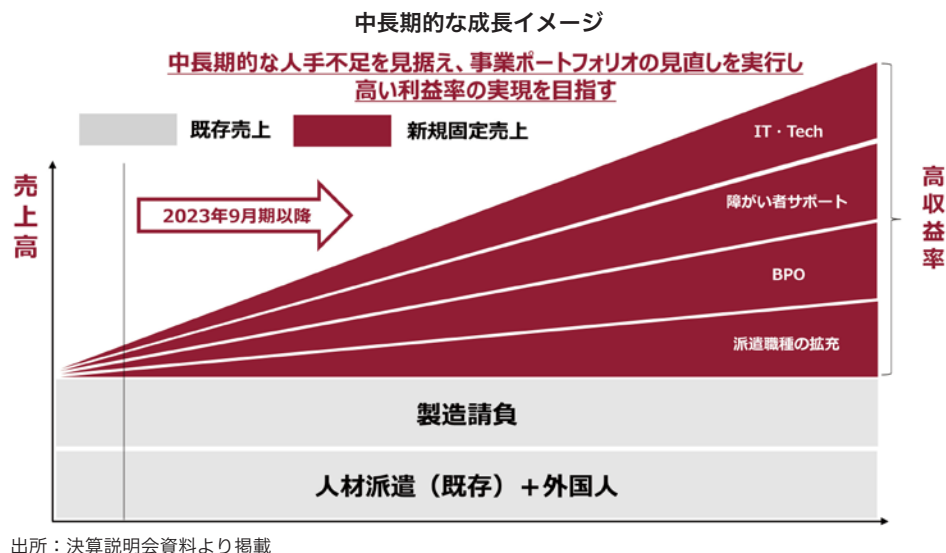
基本方針は、「派遣領域の拡充」「派遣領域の請負化」「サービスの拡充」の 3 つである。この基本方針のもと、中長期的な人手不足を見据え、事業ポートフォリオの見直しを実行し、高い利益率の実現を目指していく。具体的には、人材派遣紹介事業と製造請負事業をベースに、同社の強みである「ユニット型派遣」、BPO、障がい者サポート、IT・Tech といった事業を積み上げていくイメージである。

先述のとおり、2022 年 9 月期においても各種施策が順調に進捗した。「派遣領域の拡充」に関しては、介護・看護分野へと派遣先業界を拡大している。「サービスの拡充」に関しては、「リゾートワーク事業」を新規事業として立ち上げた。また、障がい者雇用サポートは 2022 年 9 月期に利益貢献する事業へと成長している。加えて、BPO センターの開設、営業コンシェルジュ、採用コンシェルジュなどの新規事業の立ち上がりは順調だ。「派遣領域の請負化」に関しても派遣から入って当該事業を請け負うという流れが着実に進行した。

CRG ホールディングス
7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)
<https://www.crgh.co.jp/ir/>

今後の見通し



株主還元策

配当実績はないものの、 株主に対する利益還元は経営の重要課題と認識

同社は、財務体質の強化と事業拡大のための内部留保の充実等を図ることが重要であると考え、過去において配当を行っていないが、株主に対する利益還元も経営の重要課題と認識している。

今後の配当政策の基本方針は、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況、財政状態、利益水準及び企業を取り巻く事業環境等を総合的に勘案した上で、株主に対する配当を決定する方針である。また、内部留保資金については、事業拡大を目的とした中長期的な事業原資として利用していく予定である。なお、剰余金の配当を行う場合、年 1 回の剰余金の配当を期末に行うことを基本としており、その他年 1 回中間配当を行うことができる旨を定款で定めている。これらの剰余金の配当の決定機関は取締役会である。

■ ESG/SDGs への取り組み

サステナブルな社会を実現するための取り組みを開始

同社における ESG 及び SDGs への取り組みのうち、弊社では、以下の取り組みに注目している。

(1) 雇用機会の創出

雇用機会の創出という観点から、経験豊富なシニア層の能力を生かした人材提供を行っている。コールセンターサポートをはじめとした様々な領域でシニア層の活躍の場が広がっており、今後ますます増大する領域である。

また、障がい者の就労移行支援、人材マネジメント、サテライトオフィスの提供も行っている。民間企業では全従業員数に対して法定雇用率 2.3% 以上(従業員 43.5 名に対して 1 名)、障がいがある人を雇用することが「障害者雇用促進法」で義務付けられている。しかし、個々の障がいに応じた適切な業務の切り分けや就労のサポートを、企業が自社で行うことは容易ではない。そこで、同社では障がいがある人の就労機会が少ない郊外エリアにサテライトオフィスを設置し、テレワーク勤務の環境整備を行っている。ここで働く障がい者を企業に雇用してもらい、その就労を同社がサポートすることにより、地方における雇用創出と、障がい者雇用における企業の課題解決を図っている。

障がい者雇用を推進する福祉法人とも連携し、就労サービスも提供している。一人ひとりのスキルに応じた適切な業務内容を設定し、勤務中も専任スタッフがフォローアップとケアを行っている。軽作業からスタートし、成長に応じてより高度な業務へとステップアップすることが可能であり、パソコン教室等のスキルアップ研修も行っている。無理なく段階的にキャリア形成ができ、やりがいを持って働けることで、高い定着率につながっている。

(2) ガバナンス体制

同社は、関わるすべての人「クライアント・派遣スタッフ・従業員」を大切にし、人を大切にする世界・誰もが生き生きと働ける社会の実現を目指しており、持続的な顧客の成長と同社の成長を実現すべく事業を運営している。この事業運営に関して、経営の健全性及び透明性を確保し、的確な意思決定・業務執行・監督が機能する経営体制を構築し、企業価値の最大化を目指すことを、コーポレート・ガバナンスの基本方針としている。

同社は、監査役会設置会社である。意思決定におけるけん制と監視が実質的に機能するよう、会議体における決裁を重視した体制を採用している。監査については監査役、会計監査人のほか、内部監査担当者が各種監査を行っている。また、法定機関のほかに、意思決定の迅速な対応を補完する機能として、経営会議を設置している。同社における業務執行上の重要な意思決定の多くは、取締役会及び経営会議に集約されている。

CRG ホールディングス
7041 東証グロース市場

2022 年 12 月 22 日 (木)
<https://www.crgh.co.jp/ir/>

ESG/SDGs への取り組み

ESG/SDGs への取り組み

ESG項目	当社の取り組み	SDGs項目
E (環境)	環境保護の推進 LIMEXの名刺活用	  
S (社会)	雇用機会の創出 総合人材サービス企業として社会の諸問題解決の支援	  
	教育・研修の活性化 派遣キャストの長期就業・スキルアップをサポート	
	働き方改革 業務効率化・ワークライフバランスを重視した人事制度の導入	
	地方創生 リモート派遣・サテライトオフィスなど地方で雇用を創出	 
	ダイバーシティ 健康経営・女性活躍の推進、障がい者雇用の促進	 
G (ガバナンス)	コーポレートガバナンス 社会貢献・企業価値向上に向けたマネジメント体制の構築	

出所：決算説明会資料より掲載

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp